



胆沢の地に美しい
田んぼを残した開拓者
後藤 寿庵

どこまでも続く青々とした田んぼ・・・わたしたちのふるさと奥州市は、現在県内有数の米どころとして有名である。米の産出量は県内トップ。この地がここまでさかえるには、豊かな広い土地に恵まれていたこともさることながら、先人の方々のなみなみならぬ努力や苦労があったことはいうまでもない。その先人の一人が後藤寿庵である。

後藤寿庵という人は、ここで生まれた人ではない。どこで生まれたのか、だれの子ともなのかもはっきり分らない。いろいろな説がある中で、中世奥州の豪族だった葛西氏の一族で藤沢城主(現東磐井郡藤沢町)の岩渕近江守秀信の子ともという説が今は有力である。

一五九〇年(天正十八年)葛西氏が秀吉軍にせめられて没落し、寿庵も各地を流浪する身となった。その時、長崎に行つてキリスト教を信ずるようになり、五島(長崎県南松浦郡)にわたつて五島を

名字に使うようになったと言われる。それから約二十年の月日が流れた一六一一年(慶長十六年)、伊達政宗に水沢の福原の領主になるよう命ぜられ、福原(現在の水沢南小学校近く)の地に移る。しかし、キリスト教の信者であることから弾圧され、やむなく行方をくらましたのが、一六二三年(元和九年)。したがって、この地に住んだのはたった十二、三年くらい(一六一二年〜一六二三年)だったと思われる。

しかし、寿庵はその間に、米作りにとって一番大事な水を引くための水路、寿庵堰の基礎をつくりあげた。その堰のおかげで、胆沢の地は米どころとして発展することができたのである。後生の人々は、偉大なる開拓者寿庵のりっぱな人からをたたえ、屋敷跡に寿庵廟(霊を祭る所・霊屋)をたて、毎年春と秋に寿庵祭を行っている。小学校社会科副読本『わたしたちの奥州市』には、後藤寿庵について次のように書かれている。

「・・・江戸時代の初めのころ、この地方をおさめていた伊達政宗は、用水路をほって水を引き、田を開いて米がたくさんとれるようにすることを地方の領主に命じました。

そのころ、南都田や佐倉河には早くから茂井羅堰という用水路があつて、水田が開け、米をつくつてゆたかなくらしをしていました。

それを見た水沢・福原の領主後藤寿庵は、胆沢川の上流から水を引いて用水路をつくれればよいと考えました。

しかし、村人たちは「それは、人間の力では無理な工事です。」と反対しました。それでも寿庵は「こんな広い土地をそのままにしておくべきではない。」とあって、毎日家来を連れて胆沢川の流れや土地の様子を調べて歩きました。しかし、川の水はあれ地より三メートルも低いところを流れているので、取り入れ口をさがすのに苦労しました。ようやく、上流の金入道（若柳）というところで川をせきとめて取り入れ口をつくり、用水路を通すことを決心しました。

クリシタン（キリスト教信者）であった寿庵は、キリスト教の宣教師から外国の新しい知しきをたくさん学びました。そのことをもとに、夜中までちようちんのあかりで土地の高低を調べながら工事を進めました。けれども、今のようない便利な機械はなく、げんのう、つるはしなどの道具を使いました。土をほるのも、ほった土を運ぶのもすべて人の力ですすめられていったのでした。

やっとできあがりそうになっても、あらしがやってきて、あれくるった川の水が水門をのみこみ、川底をけずりってしまうことが何度もありました。しかし、寿庵は、「あらしにあっても流されな

い水門をきずくのじゃ。」といい、先にたって働き続けました。村人たちは、寿庵の心にうたれ、寿庵の手足となって働きました。年よりから子どもまで、みんなで力を合わせて働き続けたと言われています。

しかし、そのころ、幕府がキリスト教を禁止したため、クリシタンのとりしまりをきびしくしました。どんなことがあってもキリスト教を信こうしようとした寿庵は、工事をなかばにして、政宗に追われて福原の地をやむなくさりました。」

寿庵は熱心なキリスト教信者だったので、ほとんどの家来も信者になった。また、この地に教会や墓地などをたて、全国の信者がおとずれたという。

徳川家光の時代になって、キリスト教の禁止がきびしくなり、伊達政宗もとりしまりを命ぜられた。しかし政宗は、寿庵がりっぱな人間であることを認めていた。そこで、家の中にキリスト教の神父を入れないこと、だれにもキリスト教をすすめないこと、そしてそのことをだれにも言わないこと、この三つを守れば、キリスト教を信じてても良いと話した。

しかし、寿庵は「政宗様の恩はありがたいと思っているが、キリストの恩はそれ以上である。」とこれをことわり、一六二三年（元

和九年)の十二月、寒さの中に行方をくらしました。その行き先は、盛岡藩領(盛岡方面)とも秋田藩領(秋田県)ともいわれるが、さだかではない。

寿庵が始めた寿庵堰の工事は、その後、千田左馬(前沢区)と遠藤大学(前沢区)が引き継ぎ、完成させる。そのおかげで、水がとうとうと流れ、この地は豊かな米どころとなった。

後藤寿庵はどこでなくなったのか分からない。また、寿庵のお墓といふ伝えられているものが、宮城県にも岩手県にもあるが、本当かどうかはつきり分からない。しかし、寿庵が残した業績は、美しい田んぼとして今もお残っている。そして、その名は長く人々の心に生き続けることだろう。

*後藤寿庵のことを調べたい人は、カトリック水沢教会や寿庵廟に行ってみてください。

***参考文献**

小学校社会科副読本『わたしたちの奥州市』 奥州市教育委員会

『岩手の先人』 岩手日報社編

『みずさわ浪漫』 水沢市・水沢市観光協会



寿庵についての説明
寿庵廟に向って右側に書いてある。



じゅあんびょう
寿庵廟
水沢南小学校近くの福原にある。